

クラス番号	604	担当教員名	中村 強士
テーマ	現代社会における保育・子育て支援を考える		
著書・論文	<b>【著書】</b> 『戦後保育政策のあゆみと保育のゆくえ』(単著) 新読書社、2009年 『Q&A 保育新制度 保護者と保育者のためのガイドブック』(編著) 自治体研究社、2015年 『保育ソーシャルワークの世界—理論と実践—』(共著) 晃洋書房、2014年 『「知的な育ち」を形成する保育実践』(共著) 新読書社、2013年		
研究課題等	<b>【研究課題】</b> 1. 保育・子育て支援政策のあり方に関する研究 2. 保育者・学童保育指導員の専門性(特に調査と実践記録)に関する研究 3. 「乳幼児期の子どもの貧困」と保育ソーシャルワークに関する研究		

## ゼミナール概要

キーワード：保育問題、子育て支援、子どもの貧困、子どもの権利

### 目的：

共働き家庭やひとり親家庭が増加する現代社会において、保育所は必要不可欠です。ところが都市部では待機児童が増加し、保育水準の低い認可外保育所もその受け皿となっています。その一方で、保育所は地域の子育て支援拠点としての役割を担っています。保育所は、「保育に欠ける」乳幼児だけでなく地域・家庭で育つ乳幼児に対しても、園庭開放や一時保育などの取り組みを通じて積極的な役割を果たしてきました。もっとも子育て支援は保育所だけでなく保健所や児童館、子育て広場など広範囲にわたって取り組まれています。

しかし、子どもの貧困率が16.3%（2012年・過去最高）と公表されたことから考えても、虐待に結びつきかねない貧困・生活苦による育児困難がいまなお広がっているに違いありません。その一方で、「子ども・子育て支援新制度」が2015年度からスタートしています。

本ゼミの目的は、子どもの最善の利益を保障するために、乳幼児や学齢児、その家族にどんな保育や子育て支援が必要なのかを考えることにあります。

### 目標：

保育・子育て支援に関する専門性を身につけ、子どもやその家族の当事者性を大事にした保育・福祉実践者になることを目指します。

### 計画（内容・方法等）：

- 3年次：①テキスト中心の学習を通して保育・子育て支援をめぐる現状と基礎知識を修得します。  
（今年度は、柏木恵子『子どもが育つ条件』岩波新書をテキストに学び合いました）
- ②愛知県内の保育士・保護者等の学習交流会に参加します（5月・名古屋市内）。
- ③事前学習をふまえてフィールドワークを実施し報告書を作成します（調査地はゼミ生と相談）。  
（今年度は、埼玉県深谷市にあるさくらんぼ保育園に調査合宿しました）
- ④夏休みなどにレポート課題を遂行し、添削指導を受けます。
- ⑤卒論計画書を作成し添削指導を受けて、春休みに卒論を書き始めます。
- 4年次：前期中に卒論前半（先行研究部分）を終了し、インタビュー調査を実施します。  
夏休み中に卒業論文を完成させます。卒論完成後は社会福祉士国家試験の受験勉強などをします。  
（今春卒業生の卒論テーマ：母子家庭、デートDV、若年妊婦支援、父親の育児参加、不登校、赤ちゃんポスト、早期教育、障害児支援、保護者支援、釜ヶ崎の子育て支援、世代間交流、食物アレルギー）

### 使用テキスト：

ゼミ生と相談して決めます。参考文献・資料等は随時紹介・配布します。

## 担当教員からのメッセージ



ゼミの価値は学生が集団で学ぶことにあります。集団で学び合うためのルール（出欠・時間・提出物等）が守れない場合は本ゼミで学ぶ資格はありません。

本ゼミでは、卒業後、①保育所、②障害児施設・事業所、③学童保育所、④社会的養護など保育・子育て支援の各方面で活躍するための研究能力を身につけます（ただし、実際の就職先は多岐にわたります）。

本ゼミを希望する学生は「エントリーシート」に、①現代の子どもをめぐる問題についての考え、②本ゼミを希望する理由、③目指す将来像、の以上3点を記入してください。

2016年3月末に次年度3・4年生を対象に「半日ゼミ&コンパ」を行う予定です。詳細については所属ゼミが決定後、学籍番号メールアドレスにメールします。